目　　次

巻頭言…… 前国際医療福祉専門学校七尾校　　平賀　昭信

特集　精神科急性期治療における作業療法の意味
……千葉県精神科医療センター　　平田　豊明　1

研究論文
1. 地域包括ケア病棟における情報共有の工夫
～ ADL 能力の視覚化ツールの導入と導入後のアンケート調査～
…… 医療法人社団 和楽仁　芳珠記念病院　　河崎　憲昭・他　9

2. 脳血管障害後のうつ状態が作業遂行に与える影響
～文献レビューを通して～
…… 医療法人社団 浅ノ川　金沢脳神経外科病院　　仲佐　東・他　13

実践報告
1. 急性大動脈解離後，起立性低血圧が生じ治療が長期化した症例に対する作業療法
…… 医療法人社団 和楽仁　芳珠記念病院　　合歓垣　洸一・他　19

2. 注意障害，重度感覚障害を呈した症例への Constraint-induced movement therapy の試み
…… 社会医療法人財団 董仙会　恵寿総合病院　　奥村　美里・他　24

3. 重度右片麻痺患者の非利き手における書字動作獲得に向け文字認識ソフト
（Optical Character Recognition）を用いた介入
…… 社会医療法人財団 董仙会　恵寿総合病院　　五十嵐　満哉・他　27

4. 受傷から一年以上経過した頸髄損傷患者の食事動作自立と満足度向上に向けて
…… 医療法人社団 和楽仁　芳珠記念病院　　本田　優介・他　31

5. 自己認識が希薄であったが，自動車運転再開に向けてのオリエンテーションが有効であった
一例
…… 社会医療法人財団 董仙会　恵寿総合病院　　北谷　渉・他　35

6. 当院の脳血管障害患者への自動車運転再開にむけたアプローチ
～自動車学校との連携で，再開に至った事例～
…… 社会医療法人財団 董仙会　恵寿総合病院　　高間　達也・他　38

7. 役割と楽しみであった料理の再開に向けての作業療法の関わり
- 作業意味付けの理解と家族支援を通して -
…… 医療法人社団 浅ノ川　金沢脳神経外科病院　　新瀬　瑞希・他　42

8. 機能改善を諦めていた左片麻痺患者が作業を通して復職に至った一症例
…… 社会医療法人財団 董仙会　恵寿総合病院　　上村　晴世・他　45

9. 脳血管障害を呈し，作業参加困難な事例が，意味ある作業を通し役割再獲得した一例
～人間作業モデルスクリーニングツールを用いて～
…… 医療法人社団 浅ノ川　金沢脳神経外科病院　　志村　香・他　48

10. 介護療養病棟での専従作業療法士の関わり ―楽しく食べるを支援する―
…… 医療法人社団 和楽仁　芳珠記念病院　　荒井　佑美・他　52

11. 高齢の肺炎患者への急性期からの作業療法 ～在宅での余暇活動を生かした介入～
…… 医療法人社団 和楽仁　芳珠記念病院　　椎名　拓・他　55

12. 訪問リハビリにて生活の幅を広げるため，畑作業を導入した症例
～生活行為向上マネジメントを用いて～
…… 社会医療法人財団 董仙会　恵寿総合病院　　中原　崇文・他　58

13. 機能回復に執着していた生活期左片麻痺者に対する訪問リハでの洗濯動作への関わり
～残存機能を活かした動作変更，自助具に着目して～
…… 社会医療法人財団 董仙会　恵寿総合病院　　坂本　真理・他　61

14. 自閉を呈した統合失調症患者のアプローチ方法の一考察 ―木工作業の経験から―
…… 金沢大学附属病院　　寺嶋　翔子・他　64

15. 得意な活動を取り入れることでなじみの関係の構築がすすみ
活動拡大につなげることができた認知症高齢者
…… 能美市介護老人保健施設　はまなすの丘　　明福　真理子・他　71

投稿規定…… 74

執筆要領…… 75

巻頭言

作業療法士の地域貢献　－Ｎ市の介護予防グループデイ－

平成25年5月に国際医療福祉専門学校七尾校は，職業実践専門課程の認定に向けて，作業療法学科教育課程編成委員会の開催をした．作業療法学科外部委員から学校の地域貢献が足りないとの意見が出された．作業療法学科として国際医療副専門学校七尾校として地域貢献をしていかなければと考えた．平成26年7月に，Ｎ市健康福祉部保険課を訪問し，Ｎ市の「介護予防の普及・健康づくりの推進」の中の事業に協力したい旨の依頼をした．Ｎ市では，介護予防教室で①いきいき健康クラブ，②介護予防グループデイ，③いきいき講座（Ｎ市社会福祉協議会委託）がある．その他に，Ｎ市介護予防リーダー研修会がある．その中で，協力していただきたいとの返答をいただいた．

私は，平成20年度に新潟県精神保健福祉協会の柏崎地域こころのケアセンターで，柏崎沖地震の被災地住民（柏崎市，上越市，出雲崎町，長岡市の一部）に，災害後のこころと身体のケアについて（認知症，介護予防，うつ病，自殺対策）の広報活動をしてきた．体操やレクリエーションで楽しみながら講演をした．また，学校教育の中では，レクレーション実習のデモンストレーションを，市内の小規模多機能施設，介護老人保健施設，通所リハビリテーション施設，デイサービス施設で実施していた．

さて，Ｎ市での地域貢献の活動は，平成26年1月から2月にかけてＮ市内の17か所の介護予防グループデイを訪問した．訪問時は，Ｎ市健康福祉部保険課の職員に同伴する形で認知症予防の講義と実技を行った．講義では，自身の所属施設の紹介や『作業療法士』という職種の紹介から始まり,認知症になりかけた時に低下する機能『エピソード記憶』『注意分割力』『計画力・思考力』について説明し，参加者にそれを実感してもらうための歌体操等を行い，童謡や懐メロを全員で合唱して終わる．最後に，介護予防グループデイのように，地域で集まって行う様々な活動が介護予防につながることをお伝えして終了する．

いつも初めての集団を訪問すると，参加者の目には,「どこの誰が，何しに来た」との様子がうかがえる．相互の緊張状態から少しずつ講義や実技を始めていくうちに，表情が緩み，笑い，出来たとか出来ないとの声が発生する．バラバラだった個人のこころが二人，四人，集団と結びついていく．最後は，参加者全員での大合唱となりピークを迎える.「やっぱり今日も来てよかった」と思う一瞬である．1時間という時間の中で私を見る参加者の目は，開始時点から大きく変わっている．この活動をしなければこの体験はできなかったと思う．地域貢献という目的のために作業療法士が地域を訪れた例であるが，私自身が，作業療法士でよかった思う瞬間である．

前国際医療福祉専門学校七尾校　　平賀昭信

編集後記

2015年の漢字は「安」．安全，安心のため揺れ動いた年であったかと思います．我々作業療法士としては，対象者の疾患からの「不安」をなくし，「安心」で豊かな生活を取り戻すための支援ができるよう努力していきたいですね．

さて今年も無事に本刊の発行に至りました．査読や編集にご協力頂いた皆様には心より感謝申し上げます．今回は県学会の発表者の方々に積極的に声掛けを行ったこともあり，投稿数は大きく増加しました．県学会に限らず，その他の学会，研究会で発表された内容も積極的に投稿いただければ幸いです．

来年度は石川県で東海北陸学会が開催されます．自県開催というせっかくの機会ですので，多数の学会参加・演題を期待しております．それに伴って学術誌も盛り上げていきたいと思っておりますので，多数のご投稿をお待ちしております．

学術部担当理事　麦井　直樹
河野　光伸
学術誌編集委員長　堀江　翔
編集委員　出雲　健志
西　悦子
大畠　幸恵
小林亜里沙
高林　亮
寺嶋　翔子
高崎　聡美
越田　雄
宮腰　真
向田　明奈
南　知江
山本　紗季
板倉　沙織
菊池　ゆひ
高間　達也

石川県作業療法学術雑誌（第24巻　1号）　（通巻24号）
2016年3月15日発行
編　集　公益社団法人　石川県作業療法士会
発行所　公益社団法人　石川県作業療法士会
印　刷　ヨシダ印刷株式会社